

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 3 月 28 日 9:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～38,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 38,000～43,400 ドル
(S&P500) 5000～5900

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 15,700～18,800

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 139.000～154.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～108.523

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

今年の日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4万3000円-4万5000円]です。

この第(5)波上昇を以て、コロナショック底以来5年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の3年間』完結)、その後はプライマリー第④波による停滞局面に移る、とみています。

24年7月以来のインターミディエイト級第(4)波の調整は続いています。第(2)波が「ジグザグ」だったことから、オルタネーションに則り、第(4)波形状は「トライアングル」、「フラット」、などの保ち合い型になるでしょう。

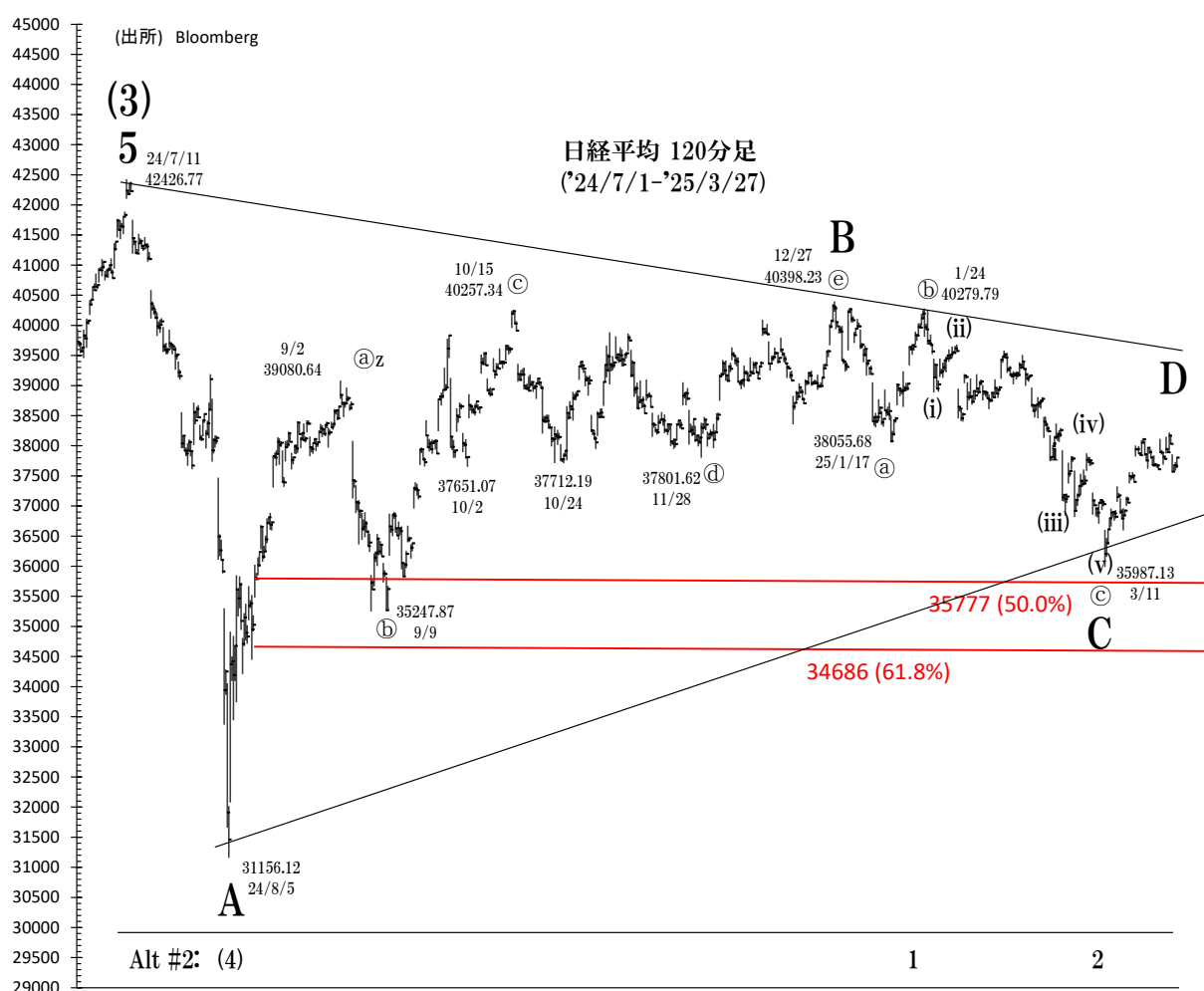
TOPIX が 8 カ月ぶり高値更新—第(5)波ラリー入りの可能性高まる

TOPIX は 3 月 26 日に一時 2821 と、24 年 7 月 24 日以来 8 カ月ぶり高値を更新しました。

(ハイテク株と値がさ株の影響が大きい)日経平均は上値が重いですが、(銀行株や商社株などがけん引することにより)TOPIX は先んじて第(5)波のラリーに入ったとみられます。

2620(3/11 安値)からは(5)-3 波による上昇とカウントされ、それは今後の数ヵ月内にも、**24 年 7 月高値(2946)を上抜く可能性**があります。





【時間足 エリオット波動分析】

40,398 円(12/27 高値)からは、第(4)波「シンメトリカル・トライアングル」(A-B-C-D-E)における、C 波の下落に当たります。

C 波は 3 月 11 日に終わった可能性が高いとみられます。この日の安値(35,987 円)を付けた時点で、日経平均予想 PER は 14.5 倍を下回っていました。24 年 9 月 9 日に一時 35,247 円まで下げた時点の PER が 14.56 倍、24 年 8 月 5 日(令和のブラックマンデー)でも PER は 13.01 倍でした。これらを参考にすると、14.5 倍台前半の PER は相当に割安感が強い水準とみてよさそうです。

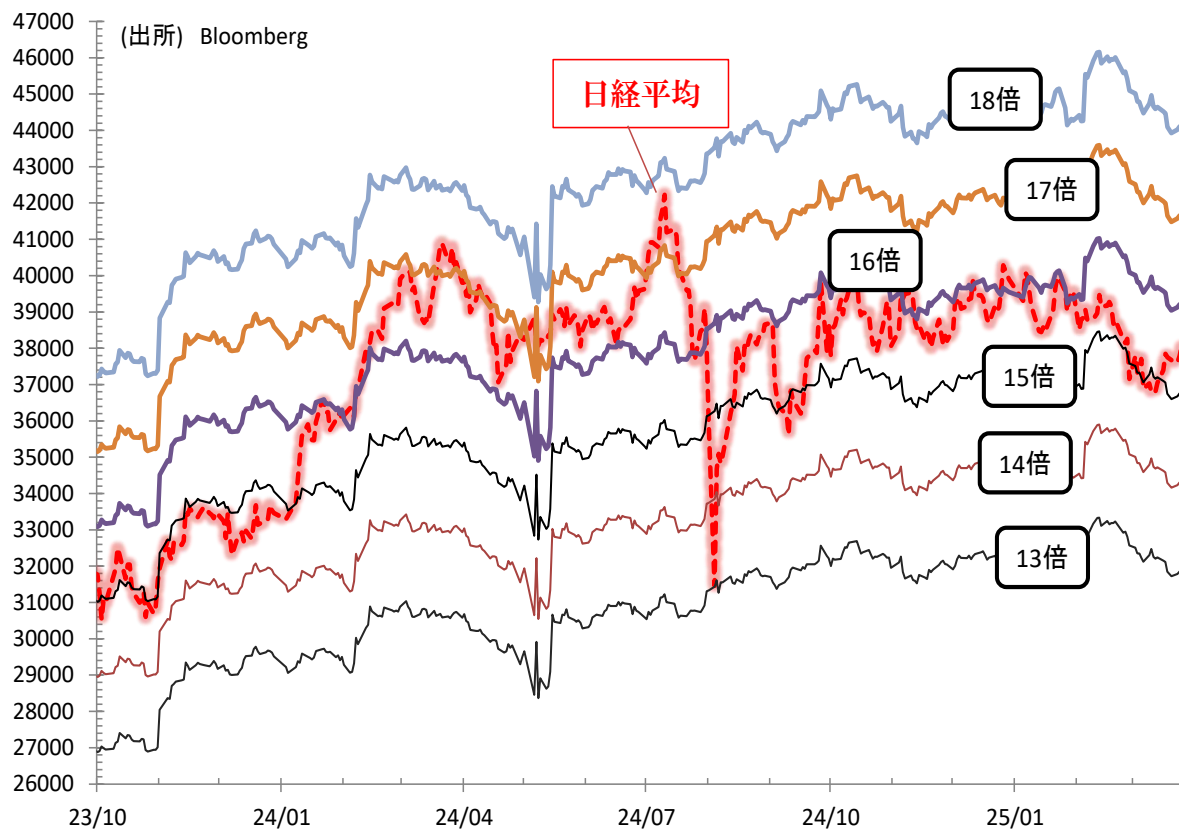
直近の上昇は D 波とカウントできます。D 波の上限は、おそらく 3 万 9000 円前後でしょう。3 万 8000 円-4 万円の価格帯での累積売買高は突出して多く、そこでは戻り売り圧力が強いと思われるためです。同価格帯の中には、200 日 MA も含まれます。

D 波完了後には E 波による下落となりますが、(現行波動カウントが正しければ)それは 35,987 円(3/11 安値)を下回ることはありません。

なお 28 日の 3 月決算企業の(配当金)権利落ち日では、日経平均の権利落ち分は 307 円程度と予想されています。

[予想 PER 別の日経平均水準]

日経平均予想 EPS は 2438 円(3/27)。過去最高は 2564 円(2/13)です。



NY ダウ・S&P500



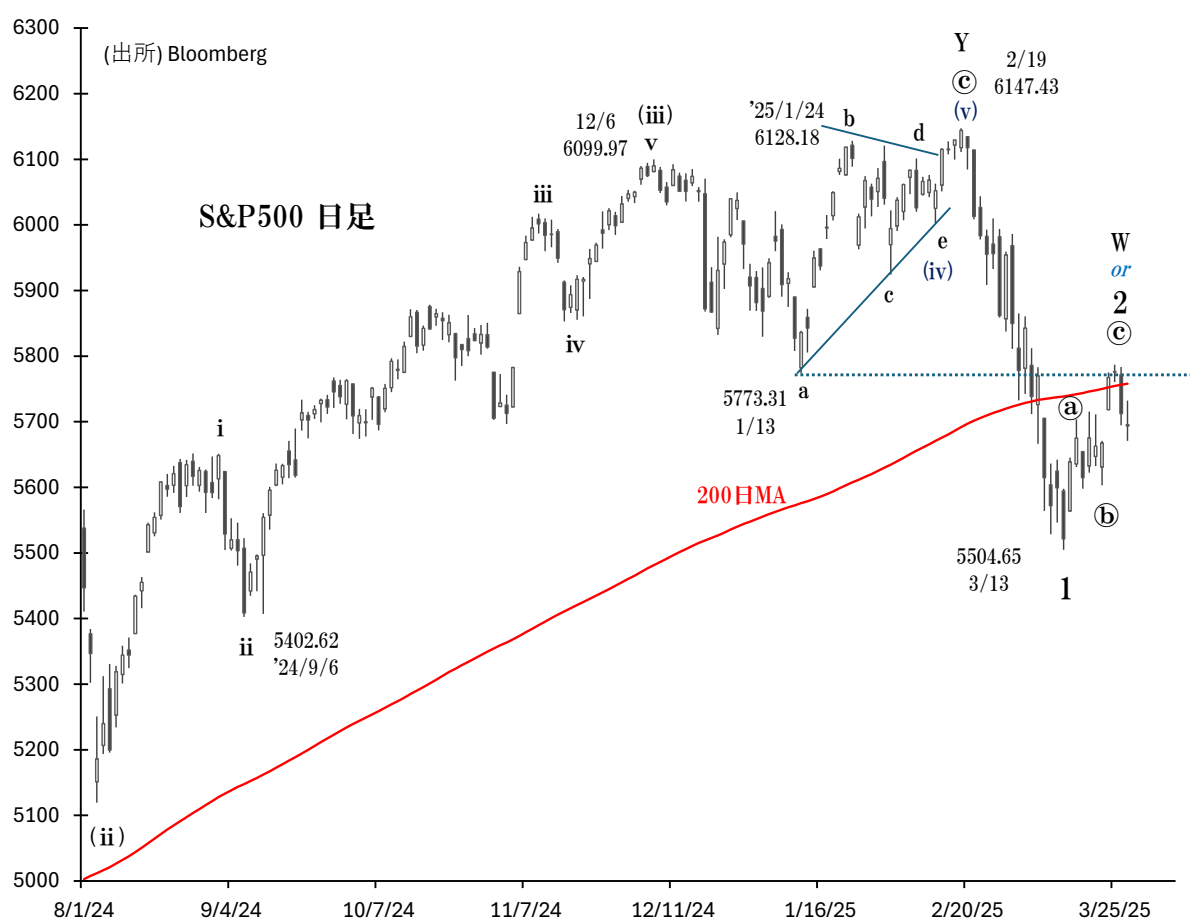
【日足 エリオット波動分析】

NY ダウは、22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波を 45,073ドル(12/4 高値)で完成。以来、(C)波の下落局面が進行中とみています。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、より大きな下落スケールになると思われます。試みに最高値から 22.4%下げる水準は[34,977ドル]であり、3 万 5000ドル処は中期タームの下値目標といえそうです。

今後数カ月内の下値目標としては、[37,611ドル](24 年 4 月安値)に注目です。これは「エンディング・ダイアゴナル」開始点水準です。

40,661ドル(3/13 安値)からのマイナー級の第 2 波によるリバウンドは、42,821ドル(3/26 高値)で終わったか、終わりつつあるようです。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

6147(2/19 高値)から 5504(3/13 安値)までの第 1 波(マイナー級)に続き、第 2 波によるリバウンド局面が展開中とみられます。第 2 波はジグザグ、あるいはダブル・ジグザグを形成するでしょう。

5786(3/25 高値)を以てジグザグ(①-②-③)は終わった、とみられます。

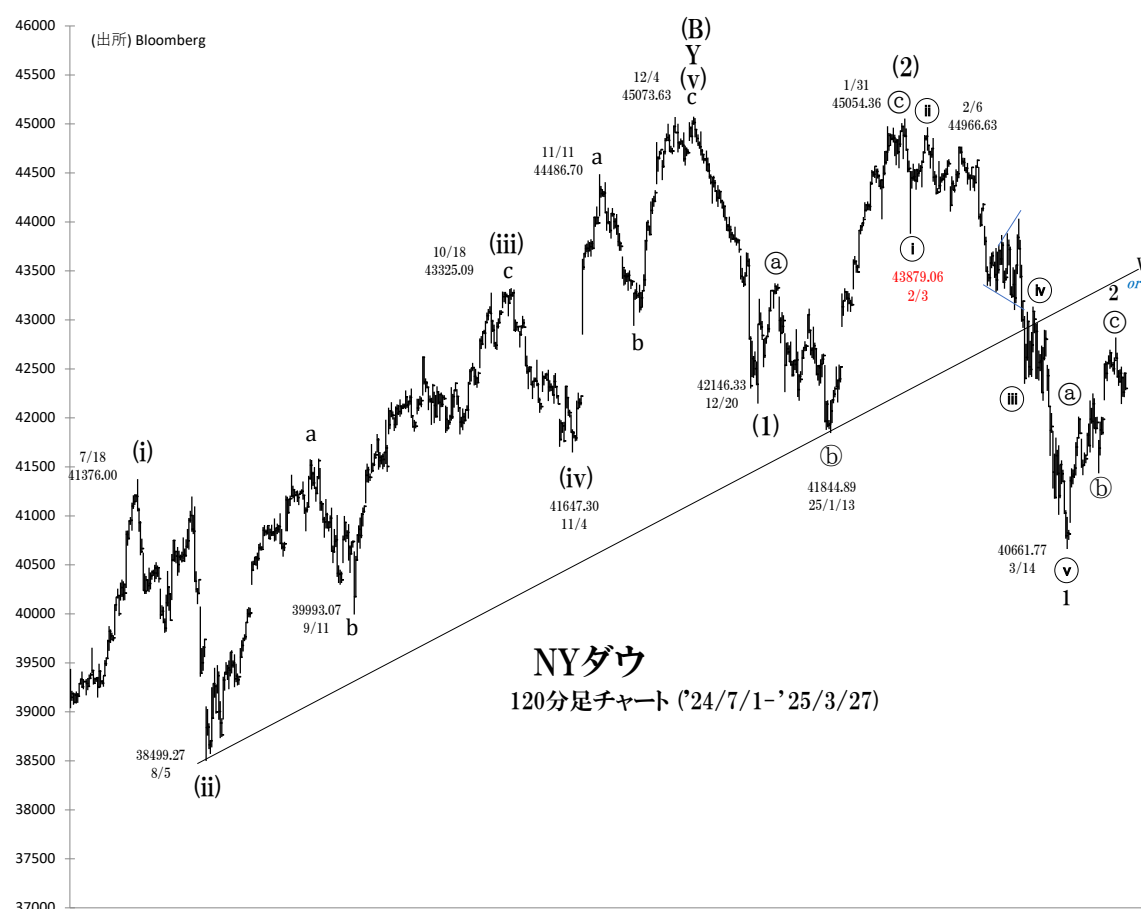
ちなみに、第 2 波がダブル・ジグザグ(W-X-Y)で展開していく場合、引き続き以下の節目を試すでしょう。

[5826]…第 1 波の下げ幅に対する半値戻り、一目均衡表の基準線(週足ベース)

[5901]…同 61.8%戻り

これら節目のいずれかでリバウンドを終えると、次はマイナー級の第 3 波による下落が続きますが、それは勢いあるダイナミックなものになるでしょう。

5603(3/21 安値)を割ると、第 2 波完了および、第 3 波下落トレンド入りの可能性が高まります。



【時間足 エリオット波動分析】

1 月高値 45,054 ドルからの下げは、インターミディエイト級第(3)波に位置付けられます。

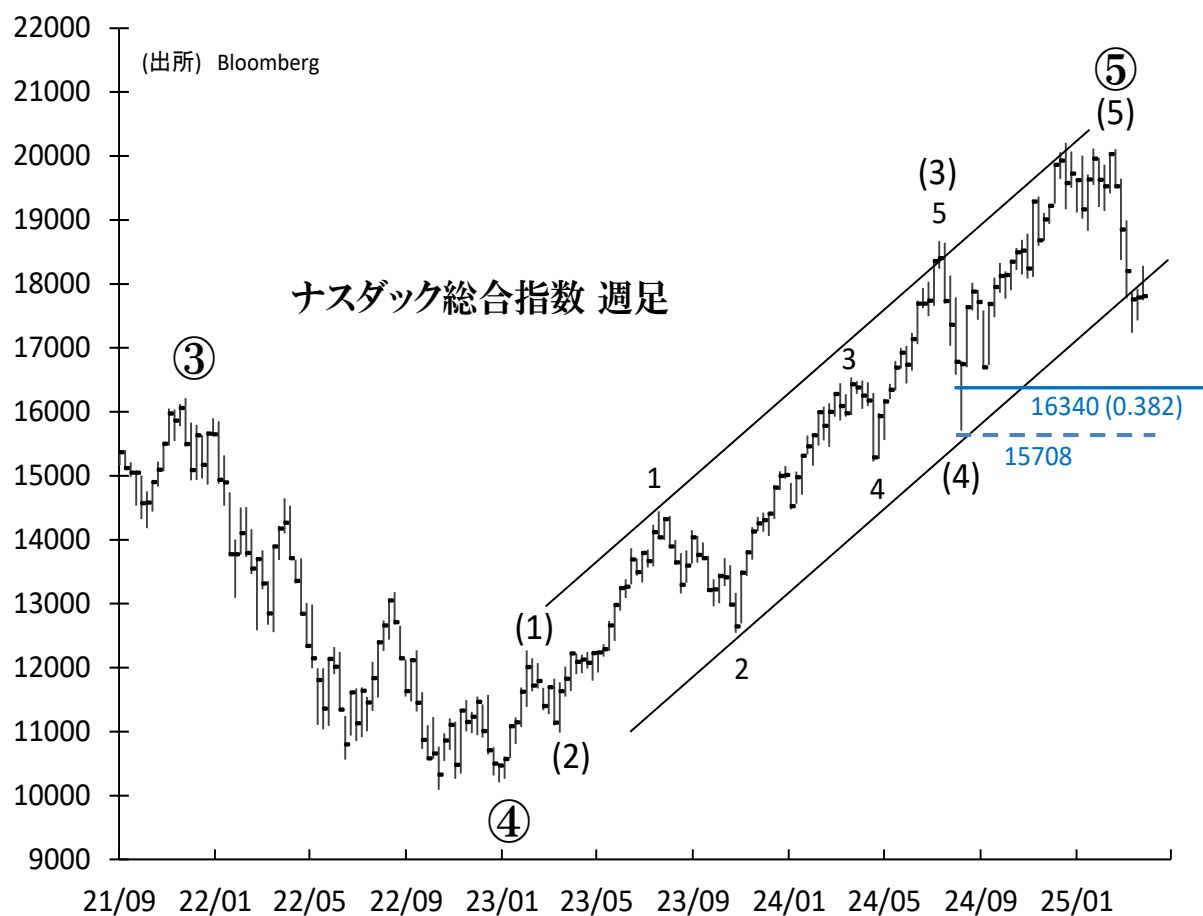
この第(3)波はマイナー級の五波構成(1~5)であり、40,661 ドル(3/13 安値)からはマイナー級第 2 波によるリバウンド局面です。

3 月 26 日に一時 42,821 ドルまで上昇し、今週火曜日のレポートであげた第 2 波メド[42,785 ドル-42,858 ドル]を達成しました。**41,433 ドル(3/21 安値)**を割ると**弱気トリガー**。下降第 3 波入りが示唆されます。

一方 41,433 ドルが維持される限り、第 2 波リバウンド継続の目は残されます。

この場合は**[43,376 ドル]**(第 1 波下げ幅に対する 61.8%戻り)への上値試しとなる可能性があります。

ナスダック



【ナスダック総合指数 週足 エリオット波動分析】

ナスダック総合指数(以下、ナスダック)は、22年12月安値(10,207)以来のプライマリー級第⑤波を完了し、サイクル級の調整に入った可能性が高い、とみています。

この見方通りなら、ナスダックの今後の調整規模はより大きく、期間も長くなるでしょう。

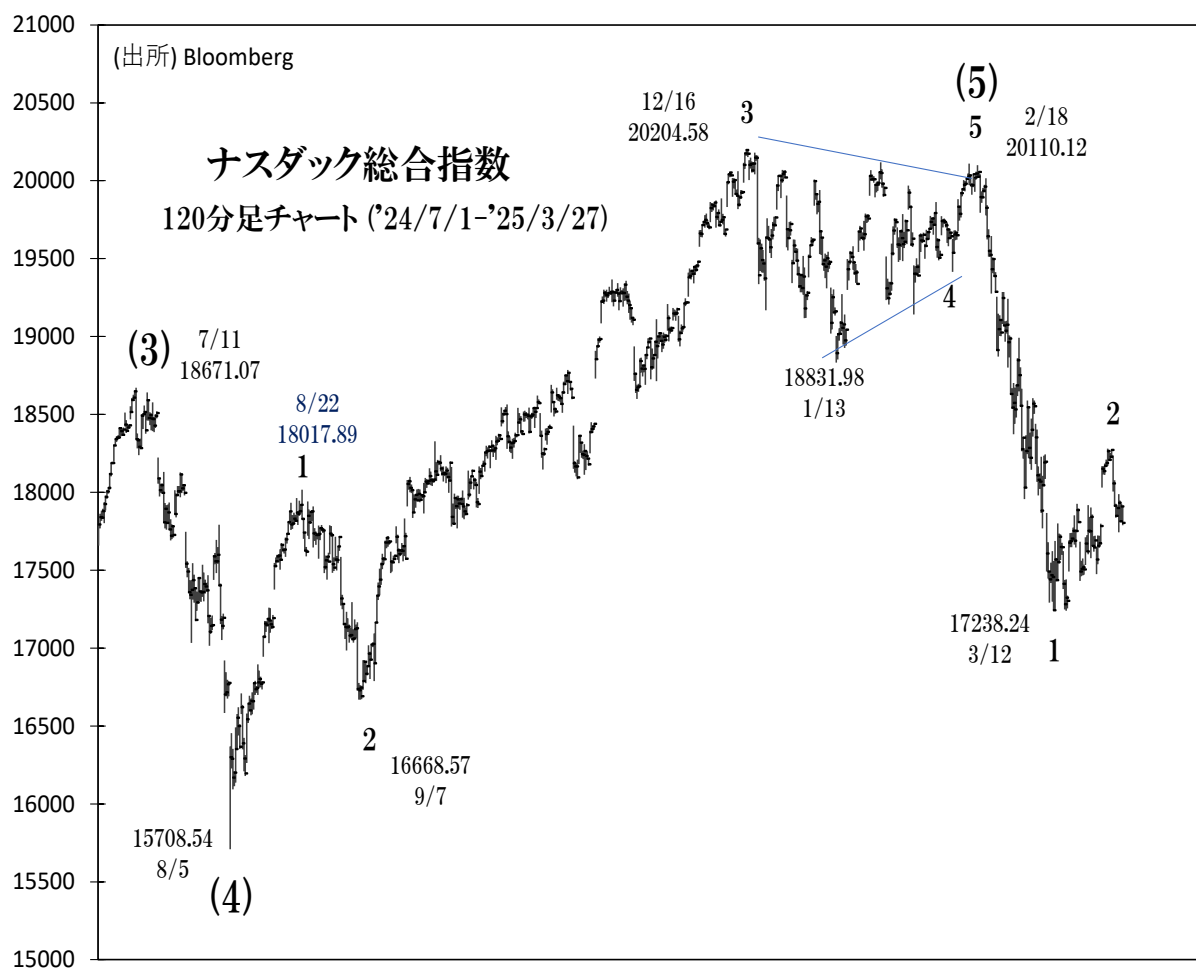
今後数カ月内にもナスダックは、以下に示す節目を目指す可能性があります。

[16,340]…22年10月から24年12月までの上昇に対し38.2%押し水準

[15,708]…プライマリー①波のレツサーディグリー(4)波安値

プライマリー④波の下げ率(37.77%)は、ほぼフィボナッチ比率(38.2%)でした。今後1～2年という期間では、[12,527](24年12月高値から38%下げる水準)へ下押し可能性もありそうです。





【時間足 エリオット波動分析】

20,110(2/18 高値)を以て第 5 波による上昇は完了し—それは最高値に未達の『短縮された第 5 波 (truncated fifth wave)』でした—本格的な調整が展開しています。

17,238(3/12 安値)からの、(マイナー級)第 2 波によるリバウンドは、18,281(3/25 高値)を以て完了したか、しつつあります。

第 2 波完了後には、第 3 波による下落トレンドが続くことになります。第 3 波はナスダックを、週足分析であげた[16,340]、[15,708]などへ押し下げることが予想されます。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011 年からの上昇チャネルのセンターライン(①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は 136.425 円(4 月)に位置します。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 116.800 円(4 月)です。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(24/7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。月足分析で記した B 波[トライアングル]説によれば、C 波は三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)になります。158.825 円(1/10)から、Ⓒ波によるドル安・円高が進行中とみられます。

ドル/円は今後数カ月内に、24 年 9 月の 139.565 円を下抜く可能性があります。以下の水準はⒸ波ターゲットとして要注目です。

[138.517 円]…Ⓐ波とⒸ波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24 年 7 月から 9 月までドル/円下落幅と、今年 1 月からのドル/円下落幅が等しい



【日足 エリオット波動分析】

ドル/円は[146.922 円] (9 月からのドル/円上昇の 61.8%押し水準)のサポート付近でいったん下げ止まっています。146.493 円(3/11)からは、第 2 波によるリバウンド局面とみられます。

足元の水準は、低下中の 200 日 MA(151.63 円)に接近しています。この 200 日 MA 付近で第 2 波が完了するかに注目です。

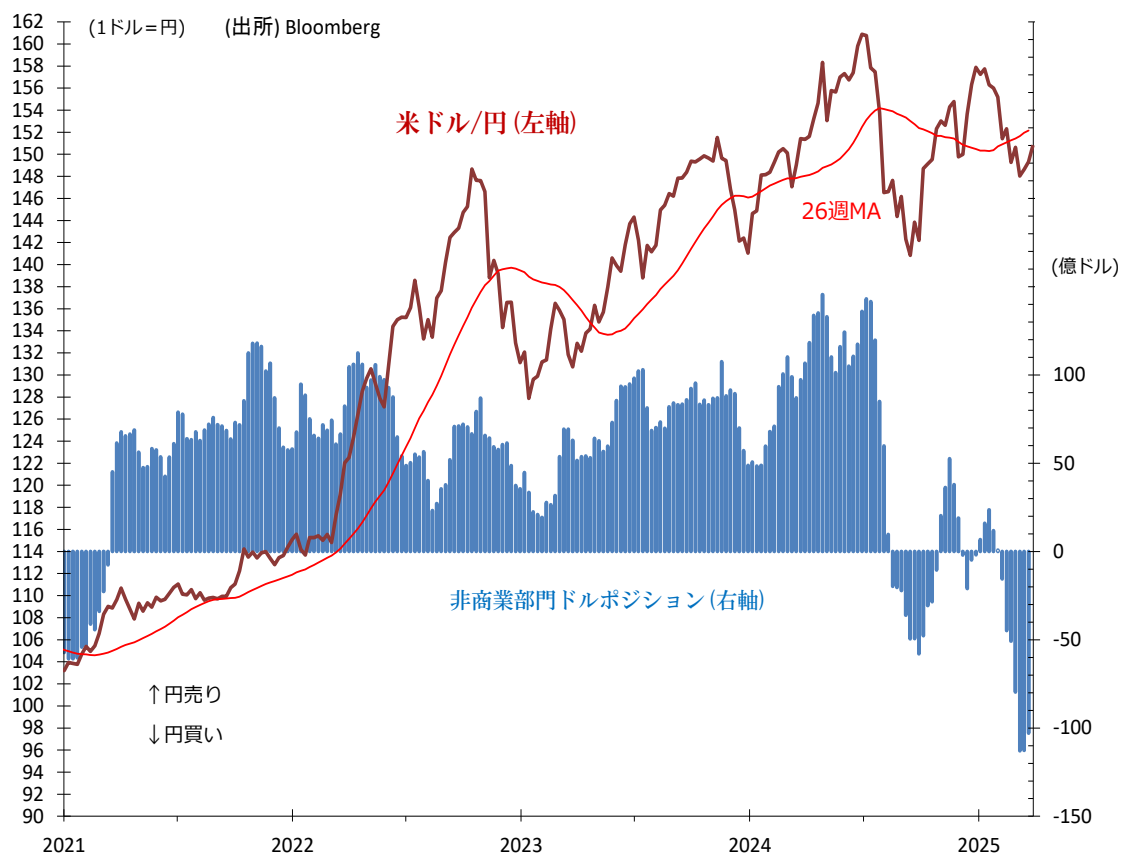
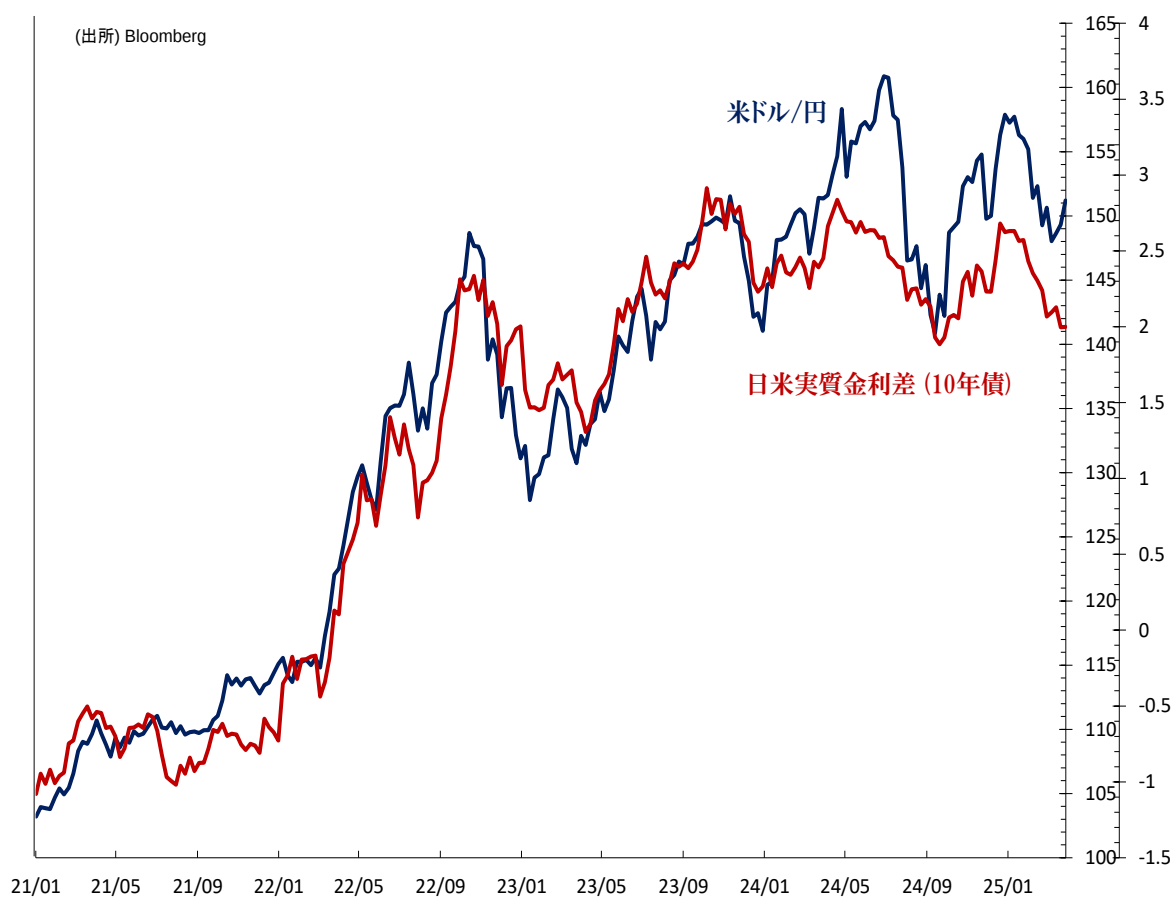
金利差からのドル/円推計値

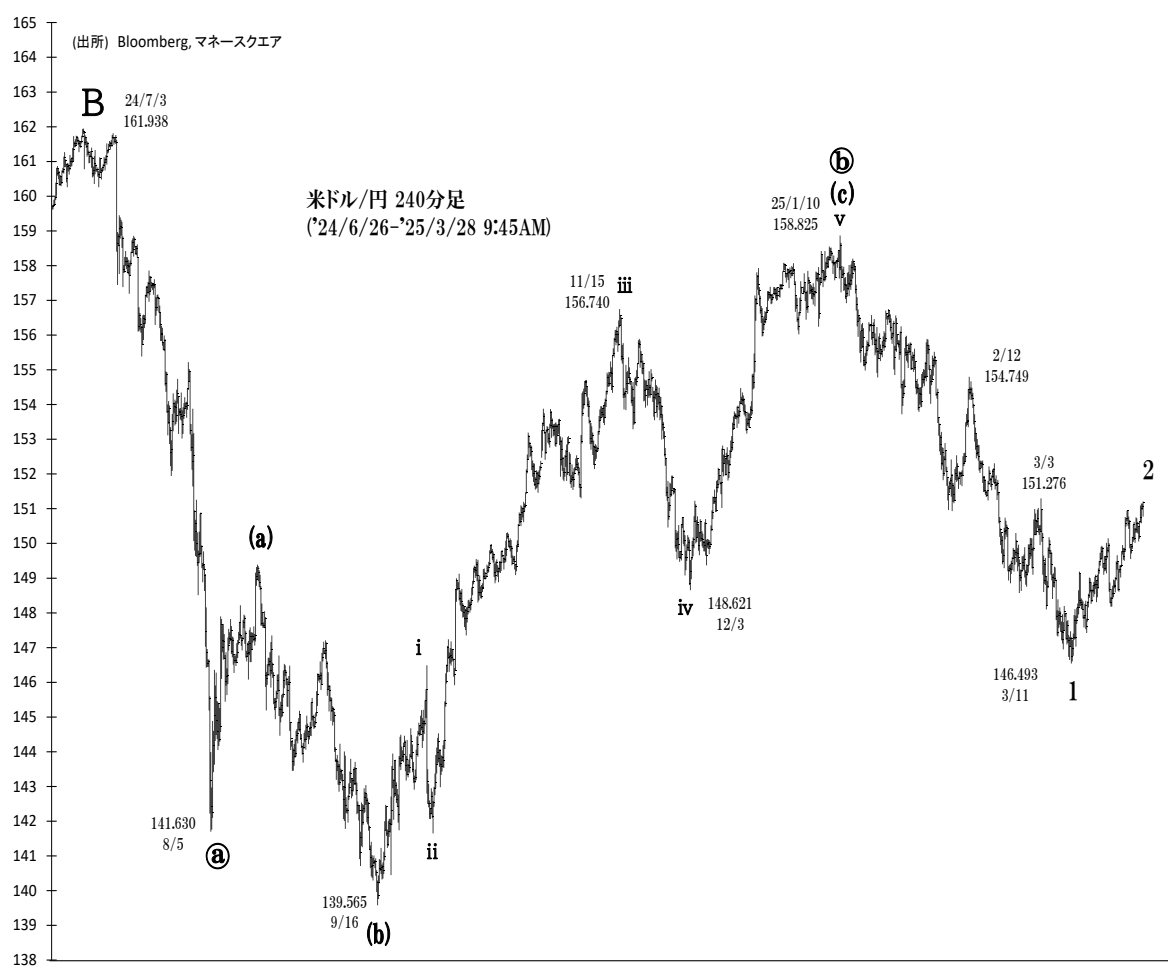
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[143.646 円]です。

投機筋の円買い持ち高は 5 週連続増加(2025 年 3 月 18 日時点)

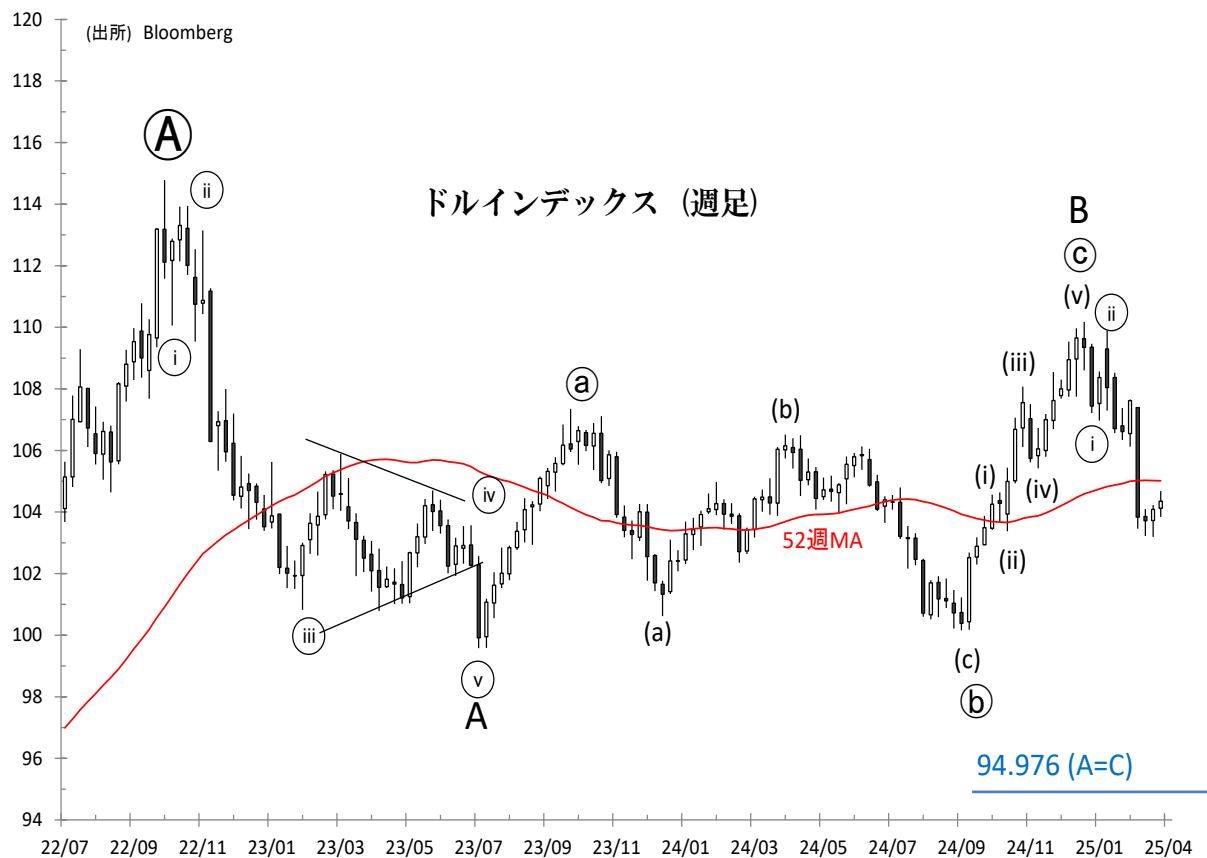
IMM 通貨先物市場における、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 113.2 億ドルから 102.9 億ドルへ、6 週ぶりに減少しました。

高水準の円買い持ちが短期的には円安を招く、という可能性を筆者は否定しませんが、トレンド自体を変えるまでには至らないでしょう。円買い持ちは日米金利差分を負担する必要があるものの、趨勢としてのドル安円高を前提にすれば理に適った行動といえます。この先「円買い持ちが常態化する」可能性には留意すべきかもしれません。





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

110.176(1/13 高値)からのドル安は、C 波に位置付けられます。

109.881(2/3 高値)から C-マル iii 波によるドル安が進行中です。既に 52 週 MA を大きく下回って推移しています。

足元、フィボナッチ・サポートレベル[103.984]付近で下げ渋ってはいますが、基調としてのドル安は今後も継続する見通しです。

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドル指数は 10 カ月で 13.2%減価しました。C 波も同様と仮定すると、**今年 11 月頃にドル指数が[95.632]まで下げる可能性**を指摘できます。

なお A 波と C 波が同幅下げるとすると**[94.976]**が得られます。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
